

支援に感謝

農力開発

<http://miyanou.myswan.ne.jp/>

農業生産法人「株式会社GRA」を見学して
2年1組 佐藤 富太

今回初めてイチゴ栽培施設の見学に行き、色々なことを学ぶことができ、施設や育て方が学校とは全く違ったところを見ることができました。夜冷処理の仕方、見たことがない土での栽培方法、移動型ベンチによる作業の簡略化、蒸気でのウイルスフリー苗の育成方法、クラウンを保温（夏は冷却）することで施設全体を暖めなくても良くコスト削減に繋がることなど、初めて見る技術や施設がたくさんありました。

私は、来年度の課題研究に何か応用できないかと思ながら見学していましたが、施設・技術ともにスケールが大きく、どれも厳しいものでした。それでも、クラウン保温（冷却）は学校にあるものでも、工夫次第でできると思いました。

今回の見学で学んだ最先端技術を参考に、今後は学校の限りある施設や資材でどんなことができるか、また、どのようにしたら出来るのかを考え、来年度の課題研究に取り組んでいきたいと思います。

最後に、作業の簡略化や最先端の技術もいいと思いますが、ビニールハウスで1つ1つじっくり育てる方法もいいかなあと感じました。



門松製作

造園専攻

春、夏、秋と育苗、刈り込み、剪定、植栽などを手がけ、2年生の作品づくりのひとつとして門松を手がけています。

門松は年神を家に迎え入れるための依り代とされています。以前は空き缶に竹を入れ、こもを藁縄で固定して作っていましたが、植栽のバランスをあれこれ手直しできるテラコッタ式の門松を作りました。2組の門松はそれぞれ違った人が担当するため、少し見た目が違いますが、心を込めて作りました。設置期間が過ぎてからは、箱庭や寄せ植えを行い、スキルアップの場としてみなさんに見ていただいております。



人生最高のたくあん

石橋 哲雄

つい先日、食品化学科の生徒達が職員室にたくあん販売に来た。いつものように生徒に声を掛け、購入した。

宮農に来て8年を終わろうとしている。その間担任をし、40名を社会に出し、さあこれから、というとき東日本大震災が発生した。当時私は新入生対応の仕事をしていたため、余震もおさまらない中、仮の職員室を名取北高にお借りして何とか体制を整えようとしていた。震災後4日目、家の食料が尽きてきたため、

何も食せず名取北高に向かった。

心が寒かった。震災による不安、職場のない不安、食事を摂れない不安。全てにおいて不安だらけだった。そんな時、農業を営んでいる先生が、私のためににおにぎりたくあんを用意してくれていた。

様々な不安を打ち消すように夢中で食べた。

におにぎりたくあんがおいしくて、おいしくて。

いまだにあれほどおいしいたくあんに出会ったことはない。もしかして味よりも大切なスパイスがあるたくあんには振りかかっていたのかもしれない。

